

メキシコ 米国ブルーベリー市場の強化とアジア・欧州への進出

Blueberries Consulting 2025年11月25日

メキシコのブルーベリー産業は品種更新を加速し、米国市場での地位確立を目指す

全国ベリー輸出業者協会(Aneberries)は2025-26年度シーズンの見通しを示し、栽培面積の拡大及び品種更新の加速と合わせて、他の輸出国との競合及びアジア・欧州市場における新たなチャンスを注視するとともに、米国市場での地位を強化するという明確な目標を掲げた。

これは、様々な作物に関する対話の一環として、同協会がメキシコのブルーベリー産業の2025-26年度シーズンの見通しを発表したものであり、ウェビナーにはアグロナセル、ベリーズパラダイス、ドリスコルズ、サンベル、ホーティフルート、プライズ、フォールクリーク、プラナサ等の企業の代表が参加し、同協会のファン・ホセ・フローレスCEOがパネルディスカッションの司会を務めた。

同協会が紹介した米国農務省(USDA)の統計によると、メキシコのブルーベリー産業の主な輸出先は米国市場である。2013-14年度シーズンから2022-23年度シーズンまで輸出は持続的に増加し、7万9,305トンのピークに達した。しかし2023-24年度シーズンには19.68%減少して6万3,701トンとなった。直近の2024-25年度シーズンでもこの傾向が続き、0.07%の微減となる6万3,658トンにとどまった。

栽培面積の拡大と新たな生産拠点

ブルーベリーの栽培面積は、2014-15年度シーズンの1,843ヘクタールから増加傾向にあり、2024-25年度には1万1千ヘクタールに達した。2025-26年度シーズンには7,648ヘクタールが既に記録されている。

主要なブルーベリー生産州は、ハリスコ州 3,663ヘクタール(48%)、ミショアカン州 1,374ヘクタール(18%)、シナロア州 759ヘクタール(10%)、バハカラリフォルニア州 712ヘクタール(6%)である。今シーズンの全国の生産量は9万1,700トンと見込まれており、そのうち14%が国内市場向け、1%が冷凍品輸出、約75%が生果輸出に充てられるものと見込まれている。

フォールクリーク社のリカルド・マルケス氏はウェビナーの中で、同社の統計によれば今シーズンの栽培面積は1万ヘクタールに近づいており、プエブラ州やソノラ州で増加傾向が見られ、生産者は新しい遺伝資源への投資を強化し、ビロクシ、ベンチュラ、ビクトリア等の古い品種の置き換えが進んでいると述べた。

プラナサ社のルベン・ゲレーロ氏は、新シーズンに向けた主要プロジェクトの進展を強調した。同社の統計によれば、2025-26年度の栽培面積は1万1千ヘクタールをやや上回る見込みである。

ドリスコルズ社のクリスティーナ・メサ氏は、栽培面積の増加は新しい品種への移行に密接に関連していると指摘した。約350ヘクタールの「新規」の植栽面積のうち75%は、市場の要求に合わなくなった品種からの改植によるものである。

メキシコのブルーベリー産業の課題

メキシコのブルーベリー産業は、米国市場への供給を主導するという目標に向けて、いくつかの課題に直面している。品種更新の関係では、生産性の向上及び新しい遺伝資源の導入に加えて、初期に導入され、今では品質や果実の状態の要求に合わなくなった品種の置き換えに取り組んでいる。

また、ペルーの米国市場参入にも備えている。メキシコ産ブルーベリーは米国への輸出に関税がかからないという有利性がある。さらに戦略として、ペルー及びチリからの供給に先立って2月から3月の春の期間に市場に投入することを目指している。

加えて、アジア及び欧州の新規市場の開拓も進められており、高品質な果実の確保が不可欠となる。このような状況下で、メキシコのブルーベリー産業は、熟練労働力の不足や悪天候といった2025-26年度及びその後のシーズンの競争力に直接影響を及ぼす可能性がある新たな課題に直面している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)